

【計画】4-5 熱ストレス増大による都市生活への影響調査

【分野：国民生活・都市生活、
対象地域：大阪府、大阪市（近畿地域全域）】

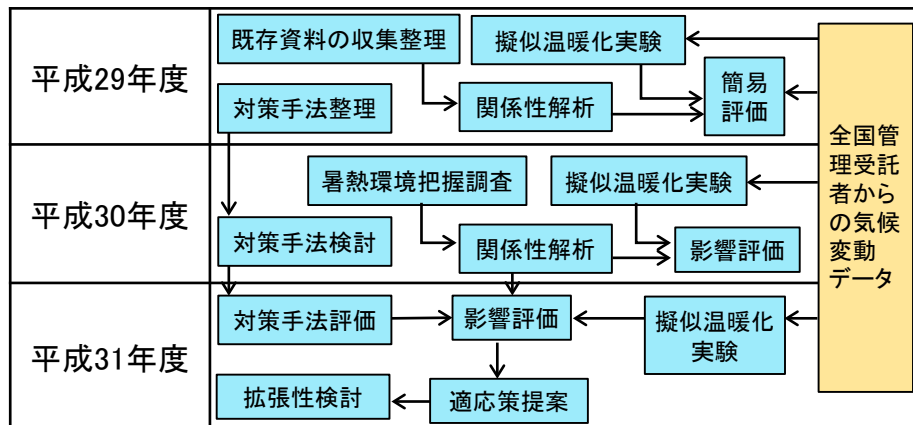
■ 目的

- 気候変動が都市生活に与える影響
気温上昇に伴う熱ストレス（熱中症リスクの増加、睡眠障害、屋外活動への影響等）が増大している。
- 現在までに顕在化している影響
大阪市における平成30年の熱帯夜日数は53日、熱中症搬送者数は2000人を超過した。（出典：「大阪府の気象 平成30年年報」（大阪管区気象台）、大阪市ホームページ「各行政区別熱中症搬送状況」（<http://www.city.osaka.lg.jp/shobo/page/0000442087.html>））
- 調査内容
既存のヒートアイランド現象に関する研究や被害状況、熱ストレスと熱中症リスク（搬送者数等）に関する知見を整理するとともに、体感指標となるWBGT※の現地観測や、気象衛星ひまわりの画像データを活用した面的なWBGTの把握調査等を実施する。さらに、既存の気候変動シナリオのデータを用いて擬似温暖化実験を実施することにより、ヒートアイランド現象の将来予測を実施し、気候変動時における暑熱環境と熱中症リスクの変化及び各種対策手法の評価を示す。

※「WBGT」

熱中症を予防することを目的として提案された指標。人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい ①湿度、②日射・輻射（ふくしゃ）など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れている。

■ 調査計画



※「擬似温暖化実験」：気候変動が各地域の気象へ与える影響を調べるためのシミュレーション手法

地域適応コンソーシアム近畿地域事業

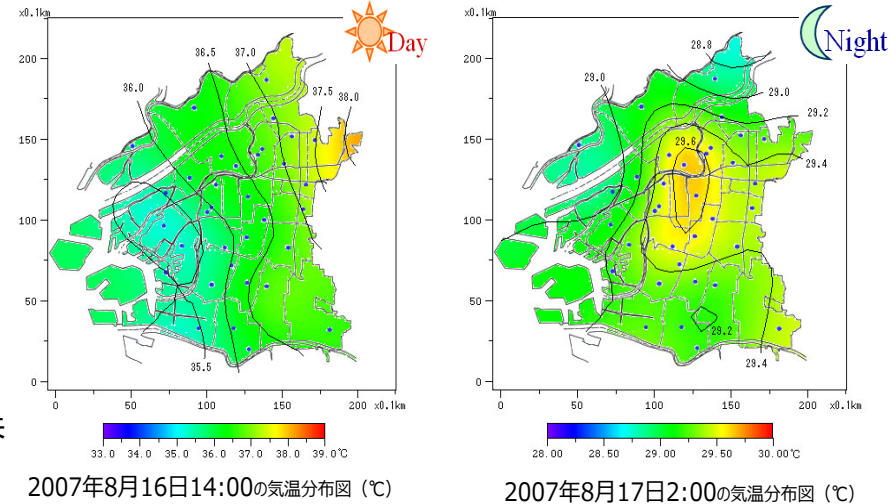


図 大阪市の気温分布図（夏季の大阪市の地域特性が顕著な事例） 出典：「大阪市ヒートアイランドモニタリング調査報告」（大阪市環境局）

■ 実施体制

